

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社 コミュニティさっぽろ		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13		
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502710-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 2 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ターミナルケアも視野に入れ入居者の皆さんはもちろんご家族にも安心して頂ける様に、一人一人の状況に合わせたケアを提供出来るように努めています。また、入居者さんに体調の変化等があった場合でも、24時間対応で相談・受診・往診が出来るように医療との連携も取れています。その時の状況に適切なケアが出来るように、スタッフが意見を出し合い協力して対応しています。 可能な限りADLの低下を防ぐ為に日中は離床して頂いて、体操やレクに参加して頂いたり、日常的なお手伝いをして頂いたりしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白石区の交通量の多い幹線道路近くに位置するグループホームです。3階建て建物の1階がデイサービスや事務所、2～3階が2ユニットのグループホームとなっています。居間と食堂が一体的で広く、各居室も比較的広く造られています。両端にベランダがあり、高校のグラウンド風景などが楽しめます。トイレや風呂も使いやすく、エレベーターも設置されるなど設備が充実しています。職員は理念をよく理解し、課題があれば話し合いで改善につなげるなど、チームワークを発揮しています。働きやすい環境を作り、職員の多くが長く定着しています。また、サービス評価に対しても職員全体で取り組んでいます。地域交流の面では、法人主催の夏祭りが地域のお祭りになっており、300人も地域のの方の参加があります。近くの2ヵ所の保育園児が来訪し、歌や遊びで交流しています。介護サービスの面では、3ヵ月毎にアセスメントシートや介護計画を更新し、きめ細かなサービスを行っています。医療面の支援体制や、看取りケアなども整っており、利用者や家族の安心につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の届く所に掲示しており、職員は理念を共有してケアを実践しています。	法人共通の理念には「地域との連帯を大切にする」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえています。職員が話し合いホーム独自の理念も作り、共用部分に掲示して理解・共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所主催の夏祭りには付近の住民も多数参加して頂いてます。また、七夕に付近の子供たちに事業所に集まってもらい「ローソク出せ」と歌って頂いたお礼にお菓子を配り、喜ばれています。	近所で行う法人主催の夏祭りが地域のお祭りになっており、300人もの地域の方の参加があります。近くの2ヵ所の保育園児が来訪し、歌や遊びで交流しています。楽器演奏や傾聴、外出などのボランティアの方も来ています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご家族の方や地域の方に介護現場での知識や経験を報告させて頂いています。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に隔月で開いており、包括・民生委員・町内会長・近隣企業・ご家族様に出席して頂いています。事業所の状況報告や災害対策等、意見交換を行っています。会議の始めに前回会議の議事録を配布し、前回の会議の確認を行っています。	運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催され、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者家族などの参加を得ています。外部評価や行事、夏祭り、介護保険制度、看取りなどのテーマで話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の管理者会議に出席して連絡事項の確認を行っています。また、生活保護の入居者さんも多く、保護課の担当者さんとも情報交換や相談を行っています。	運営推進会議で地域包括支援センターの参加があり、意見を得たり、介護保険制度の説明を受けています。管理者は区の管理者会議の役員を経験し、行政担当者と相談しやすい関係を作っています。市にオムツの助成制度などの相談も行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会が開催されており、積極的に参加しています。研修内容の共有を行い、実践に努めています。	身体拘束は行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルを整備し、外部研修受講後には報告会を行っています。玄関は夜間のみ施錠しています。ユニットからエレベーターホールへの自動ドアは、ボタンで開くしくみで、利用者も自ら開けることができます。	
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にも参加し、内容の共有を行っている。また、職員同士で言葉使いや対応等常に注意し合うように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等のマニュアルを準備しいつでも確認出来るようにしています。今後、内部研修等で勉強会を行いたいと検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時は契約書を読み上げながら説明を行っています。不明な点等を確認し、十分に理解・納得して頂いてからサインを頂く様にしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がいつでも意見を出せる様に、各ユニットの入り口には意見箱を用意してあります。入居者さんによっては、直接スタッフに苦情や意見を出して下さる方もおり、その都度対応しています。	運営推進会議や来訪時に家族の意見を聞き、得られた意見は「連絡ノート」で共有しています。利用者の服装や食べ物に家族の意見を反映しています。外部評価のアンケートの集計結果も運営に反映しています。2ヵ月に1度、各ユニットの広報誌を作成し、家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議には代表者並びに管理者も出席して職員や現場の状況を把握するよう努めています。その際に意見や要望を出して頂き、対応を検討しています。	月1回ユニット会議があり、職員同士活発な意見交換がなされており、会議には代表者も参加しています。職員はいつでも管理者と個別に相談することができます。職員は、お祭りや広報誌作り、防災、誕生日企画などの担当を持ち、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各ユニットの会議に参加するだけでなく、現場の様子も確認して職場状況の把握に努めています。職員の提案により、その都度整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、全ての職員が最低でも年に1回は受けれるように調整を行っていますが、職員不足等により調整が困難な事もありました。研修を受講する際は、代表や管理者が個々の職員に必要な研修を考慮して調整するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や管理者会議、連絡会に参加して情報交換を行い、ケアの質の向上に活かしています。今後、他のGHさんの見学などを通して交流を深めたいと検討しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、アセスメントを良く行って安心して入居出来る様に心掛けています。また、見学もして頂き、ホームの雰囲気を感じて頂いて少しずつ慣れて頂ける様に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、家族の希望・不安を確認するようにしています。その後も、疑問点や不安が出て来た場合は、その都度お話をさせて頂き安心して頂ける様に援助しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に、家族や本人がどのような希望があるか確認し、必要なケアを検討しながら準備を進めています。GH入居だけではなく、他のサービスも含めて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に会話やレクを楽しんだり、食事の献立を考えて頂いたり、「共に暮らす」という雰囲気作りを心掛けています。食器を拭いて頂いたり、ご飯を盛って頂いたりと家事も共に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、入居者さんの状況を伝え共有しています。体調に変化があった場合でも、家族と相談して「何が本人に一番良いのか」を話し合いながら対応を行っています。行事にも参加して頂き、一緒に楽しんで頂くと共にご家族からの支援も頂いています（行事のボラ等）。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が訪ねて来られ、会話を楽しまれています。自室に電話を設置している入居者さんもいらっしゃる、友人と会話を楽しまれている事もあります。	友人や知人がホームに訪れる利用者が2～3名おり、歓迎しています。自室に電話を引いている利用者もいます。近くの馴染みの美容室に通う利用者の送迎をしており、墓参りや選挙、コンサート見物など家族やホームの支援で希望に沿った外出ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活歴等を検討し、仲良く暮らせる様に心掛けています。行事を行う際も入居者さんが一緒に行動したり、作業を行う時も協力して行える様に配慮しています。状況に応じて席の配置やテーブルの配置も検討しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、相談や問い合わせがありましたら、その都度対応してます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の為、自分の希望や意向を十分に表現出来ない方も多いですが、表情や行動、性格や過去の生活歴、ご家族からの情報等で推測して可能な限り本人の希望に沿った支援が出来る様に心掛けています。	言葉で思いや意向を表現できる利用者は少なくなっていますが、難しい場合も経験や家族の情報をもとに思いや意向を把握しています。3ヵ月毎にアセスメントシートを見直し、情報を更新しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人やケアマネさんからお話や情報を頂き、本人の生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に生活の様子を記録しており、同時に食事や排泄の様子、気付いた事等も記録し、体調の変化を把握出来る様に気を付けています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族はもちろん、協力病院の医師や看護師からも意見を頂き、過去のケアの内容も検討して、最低でも3ヶ月に一度介護計画の見直しを行っています。また、月に1回のユニット会議でも介護計画について職員全員で検討を行っています。	介護計画を3ヵ月毎に見直し作成しています。アセスメントを行った上で、目標の達成度を評価し、ユニット会議を経て計画の更新を行っています。日々の介護記録は計画目標を意識して記録するようにしていますが、ユニット間で差が見られます。	日々の介護記録について、両ユニットで計画目標を意識しながら、目標に沿ったサービスの提供状況や利用者の様子を記載し、次の計画に活かせるよう、記録の充実を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前述の介護記録により、ケアの実践及び結果を確認出来る様になっています。職員は休日の間の記録の確認を行い、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により図書館に行ったり、コンサートに行ったり支援を行っています。緊急に受診を希望された場合等、代表にも手伝って頂くなど、可能な限り支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事にボランティアをお願いし、買い物や花フェスタの桜の観光等の支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としての協力病院はありますが、本人や家族の希望があれば、可能な限り対応しています。	協力医療機関の内科による月2回の往診があり、眼科や皮膚科、歯科の往診もあります。個別のかかりつけ医の通院は家族対応ですが、必要に応じて通院支援しています。受診内容は医師が作成する往診記録や医療分の連絡ノートにより確認できます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護に来て頂き、入居者さんの体調の伝達を行っています。また、高齢で通院困難な入居者さんに、点滴や注射等の処置もして頂いたり、褥瘡が出来た入居者さんに毎日洗浄のケアをして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居者さんの基本情報を医師・看護師に伝え、速やかに治療が行える様に心掛けています。面会も密に行い、早期退院に向け医療スタッフと相談を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合と終末期ケアの対応の指針の説明を行いサインを頂いています。家族と入居者さんの希望を重視し、医療とも連携を取りながら支援しています。	「重度化した場合の対応に関する指針」を説明し、家族のいる利用者とは既に同意書を交わしています。職員は過去に多くの看取りを経験しており、利用者や家族の希望に沿って支援を行う方針としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時のマニュアルを準備し、いつでも閲覧が可能です。消防署で開催された応急処置の講習会にも職員が参加し、AEDの使い方や毛布を使った避難の仕方等を勉強してきています。医療とも急変時の対応について随時話し合いをしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で、日中及び夜間想定訓練をしています。災害に備え、緊急通報システムや連絡網も整備しています。近隣企業へ協力の依頼も行っています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防や地域の協力を得て実施しています。職員の救急救命訓練は定期的に行なわれてはいません。災害時の備蓄品については十分ではない品目もあります。	全職員が定期的に救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待します。また、不足が考えられる災害備蓄品の準備と、地震等火災以外の災害も想定して職員間で話し合いを行うことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の性格や人格に配慮して、排泄や入浴の声掛けを行っています。入浴を拒否する方も多いますが、声掛けを工夫したり、日を改める等スムーズに入って頂ける様に努力しています。	利用者の呼びかけは「さん」づけを基本とし、新人研修や外部研修受講後の報告会などで利用者への接し方やプライバシー保護を学んでいます。記録等は事務室に適切に保管・管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服を選んで頂いたり、飲み物の希望を聞く等して、自己決定のきっかけを作っています。誕生日に食べたいケーキもカタログを見て貰い決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはありますが、その日の体調に合わせて食事を遅くしたり、お昼寝をして頂いたり、散歩に出掛けたりと、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行って服やアクセサリを買ったり、お誕生日や外出の時はお化粧をするなどして、おしゃれを楽しめる様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの食べたい物等を聞いて、献立を作成しています。可能な限りご自分で食事を召し上がって頂ける様に、軽い食器を用意したり、食器の配置を検討したりしています。また、食材の皮むきや米とぎ、食器拭き等も手伝って頂いています。	各ユニットで献立を作成し、彩りや品数の豊富な美味しい食事が提供されており、利用者は芋の皮むきや茶碗拭きなどを手伝っています。音楽を掛けたり職員が利用者と楽しく会話して食事を楽しんでいます。ベランダで採れた野菜も提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録により確認出来、検食簿によって食事のバランスも確認出来る様にしています。入居者さんに応じて、食材を刻んだりする等の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に歯磨きを促し、又は介助を行い口腔内に残渣物が無いように気を付けています。義歯は夜間に洗浄剤に浸けて、殺菌・消毒を行い清潔を心掛けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方は、チェック表を作成してトイレ誘導を行っています。予防的にオムツを使用していますが、日中は全員トイレに誘導して排泄を促しています。また、「落ち着きが無い時は排泄のサイン」等、職員間で情報を共有しています。	ほとんどの方が誘導や見守りが必要で、誘導が必要な方は排泄チェック表でパターンを把握し羞恥心に配慮しながら声掛けしています。日中はトイレでの排泄を支援し、夜間は部屋でポータブルトイレの使用や、排泄用品の交換を行うこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を勧めて、ヨーグルトも積極的に提供しています。また、体操や歩行運動なども行い、自然な排泄を促していますが、下剤や坐薬で調整している方も多いです。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2～3回支援しています。しかし、拒否のある方は時間をずらしたり、その日は中止にする等、臨機応変に対応させて頂いています。	日曜日以外の毎日、主に午後の時間帯で、各利用者が週2～3回入浴しています。希望があれば午前の入浴も可能です。拒否を拒む場合は日にちや時間、誘う担当者を変えています。ゆず湯にしたり、入浴中に会話をして入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんにより、習慣的にお昼寝をされたり夜遅くまでテレビを見てらっしゃる方もいます。また、夜間に寝れなかった時は、午前中に休憩を促す等の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人のファイルに処方内容を保管し、用法や容量・副作用について職員が常に確認出来る様にしています。薬の変更時は、朝・晩のミーティングで報告すると共に連絡ノートに記録し、定期で飲んでる薬と一緒にセットする等、誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付けを手伝って頂いたり、歌が好きな方が多いので体操に歌を組み込んだり、日々工夫しています。新聞や雑誌を読むなど、自由に過ごして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望によりコンサートや図書館に出掛けたり、スーパー等へお買物の支援を行ったりしています。その際、ボランティアさんをお願いし、車イスを押して頂く等の支援を頂いています。	夏季は日常的に近くの公園に散歩に出かけたり、車で大型スーパーと一緒に買い物に行っています。車いすの方も散歩に出かけています。年間行事では、花見やもみじ狩り、乱拍子見物、法人の夏祭り、回転ずしでの外食などが行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理は家族にお願いしています。但し、認知症が軽度の方は、小額のみ本人に管理して頂き、外出時にお買い物を楽しめる様にしています。お金の管理が困難な方も、外出時にお金を渡して、本人が会計を行える様に援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在「電話を掛けたい」と希望される入居者さんはいらっしゃらないが、事業所備え付けの電話はすぐ使えるようになっていて、希望があれば支援出来る体制になっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に応じた飾り付け(クリスマス・雛祭等)を行い、また自作のカレンダーにも季節感を持たせて、入居者さんに楽しんで頂けるように配慮している。春や夏には植物を飾り、冬にはベランダに雪ダルマを作ったりする等の環境作りも行っています。	共用空間は広く清潔に保たれ、両端にベランダがあり、高校のグラウンドの風景などが楽しめます。トイレや風呂も使いやすく設計されています。壁には絵画や装飾が飾られ、ひな人形も飾られています。温度や湿度、明るさも適切に調節され居心地よく過ごせるように保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの各所にソファやテーブルを配置して、ゆっくり休んだり入居者さん同士でテレビを見ながら会話して頂くなど、自由に過ごせる様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、本人が使い慣れた物を持参して頂き、安心して過ごせる空間作りに努めています。また、家族や知人が持ってきてくれた置物等も配置して、その人らしい空間になるように努めています。ご本人やご家族の写真を飾る等、居心地の良い空間作りに努めています。	個々の居室は比較的広く、利用者の馴染みの家具や生活用品、テレビなどが持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。壁にもカレンダーや写真を飾り、家庭と同じような雰囲気としています。窓の前が作り付けの棚になっており、好きなものを飾ることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付け混乱を防いだり、必要に応じて手すりを増設する等、その時の状況に応じた安全を考慮しています。		